

令和3年度限定 東日本・西日本学生バドミントン選手権大会
組み合わせ基準

2021年4月29日
全日本学生バドミントン連盟

東日本・西日本学生バドミントン選手権大会は、現行の公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第5章第28条～32条を適用し、シードは団体戦・個人戦それぞれ次の通りとする。

【団体戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～③により、1～16までシードする。

※ ①～②は令和元年度（と平成30年度）結果を基に「添付資料の方向性」に沿って決定する。

①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。

②前年度本大会のランキング4位以内、8位以内をそれぞれ抽選によりシードする。

ただし、昨年度と同じ対戦は避けるものとする（4シードと8シードの当たりもチェックする）。

※ ③は令和3年度大会結果が適用可能。

ただし、令和3年度大会が開催されなかった場合、「地区学連内ランキング」を基に決定する。

③参加する地区学生連盟の出場校の内、直近の地区大会上位校を抽選により上位から16までシードする。

2. 以降自動抽選

★③については、参加校数の割合で各地区の抽選対象校数を算出し、それを基に抽選により各地区上位からシードする。

例：参加校数：関東34、東北4、北海道10校の場合、抽選対象校数比率「5：1：2」を基に抽選により各地区上位からシードする。

➡抽選対象校数（関東5校・東北1校・北海道2校；計8校の倍数）

★1回戦は、昨年度と同一対戦は避ける。

★ブロック内での各地区バランスを考慮する。特に参加校数が少ない地区のバランスを優先的に考慮する。

【個人戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～⑬により、1－32までシードする。

※ ①～④、⑥⑦、⑨⑩は令和元年度（と平成30年度）結果を基に「添付資料の方向性」に沿って決定する。

- ①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。
- ②前年度本大会のランキング4位以内、8位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ③前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。
- ④前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング4位以内、8位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑤組み合わせ会議直近の日本ランキングの32位以内をランキングによりシードする。
- ⑥前年度本大会のランキング16位以内、32位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑦前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング16位以内、32位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑧組み合わせ会議直近の日本ランキングの64位以内をランキングによりシードする。
- ⑨前年度本大会のランキング64位以内を抽選によりシードする。

ただし、種目の参加人数・参加組数が少ない場合は考慮しない。

- ⑩前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング64位以内を抽選によりシードする。
- ⑪組み合わせ会議直近の日本ランキングの128位以内をランキングによりシードする。

※ ⑬は令和3年度大会結果が適用可能。

ただし、令和3年度大会が開催されなかった場合、「地区学連内ランキング」を基に決定する。

- ⑫参加する地区学生連盟の選手の内、直近の地区大会上位者を抽選によりシードする。
- ⑬各地区内のランキングを考慮して各地区の中でのみ入替可能とする。

2. 以降自動抽選

★⑪までで32シードが埋まらない場合、⑫で各地区直近大会のベスト8を上位から抽選で入れていく。

➡抽選の地区割振り数は、団体戦同様参加者数から算出した割合による。

★⑫までで32シードまでが埋まらなかった場合は、そのまま「空き」にしておく。

★自動抽選の後、各地区のバランスを考慮して32シードまでを除いたそれ以外で動かすこともある。

★一回戦は、昨年度と同一対戦を避ける。

★シングルスにおいては、ダブルスのパートナーを等分に分けるのが原則であるが、事情によっては相異なる1/8に組み入れることまで認める。

3. 日本バドミントン協会の要請で各種大会に派遣される場合及びその他の特別な理由により、当該選手が上記シード基準①～③に適応されない場合は、そのシードについて考慮する場合がある。

※ 各地区学連は参加申し込みの際に「学連内ランキング（団体・個人）」
「直近の日本ランキング 128 位内の選手名簿（ランキングを付して）」を
主管学連に提出すること。

以上

【組み合わせ会議の効率化】

- ※大会の主管学連は、組み合わせ会議当日までに組み合わせ原案「1
案：団体戦は 16 シード、個人戦は 32 シード」を準備する。
- ① 上記の基準に沿って「シード決」及び「シード下決」を行い、ア
サミ大会運営ソフトに入力を完了しておく。
- ② ダブルスパートナー分けを含めて、シード内での「組み合わせ検
査」を完了しておく。
- ③ 原案作成手順を「説明資料」として添付する、特にシード内での
変更が生じた場合は理由を明確に記載すること。
- ※最終案を基に自動抽選後の★印等を調整して組み合わせを確定する。
この際、上記基準以外のバランス（パワーバランス等）は極端な場
合を除き、原則として調整はしない。
ただし、今回に限って、前年度戦績から特定された個人及び大学
のランキング内抽選ではなく、各地区学連への人数（組数）割り振
り後の「抽選」で個人や大学のシード位置決めが行われるので、シ
ード内でのパワーバランスの調整を最小限認める。
- ※抽選はコンピュータでランダム関数を使用してもカードやダイス等
を使用しても数学的確率は同等である。
➡原案作成方法（ランダム関数 or カード）は主管学連の判断による。
- ※主催学連である全日本学連は、レフェリー等サイン入りの原本をコ
ピーした副本を各地区学連に配布する。